

祝 文化勲章

太田朋子先生

集団遺伝学の太田朋子氏（83）、ノーベル医学生理学賞の受賞が決まった東京工業大栄誉教授の大隅良典氏（71）他4名に2016年の文化勲章を贈ることが決まりました。太田氏は女性として初の自然科学分野での受章となります。※太田先生は、豊田西高校の前身である挙母高校の卒業生（昭和27年3月卒）、みよし市のお生まれです。

<太田朋子先生の業績>

生物の分子進化「ほぼ中立説」の提唱が大きな業績です。「ほぼ中立説」は1990年代以降、タンパク質や遺伝子DNAの研究が進むにつれ、認められるようになりました。

1981年 第1回猿橋賞

1985年 日本学士院賞

2002年 文化功労者選出

2006年 SMBE Council Award for Lifetime Scientific contributions to
Evolutionary Biology

2015年 クラフォード賞

2016年 文化勲章



写真は SMBE 受賞時のものです

「ほぼ中立説」・・・ 「生物の突然変異は生存に有利か不利のどちらかであり、有利なものが生き残る」という「自然淘汰説」が1960年代半ばまで主流でした。国立遺伝学研究所の木村資生名誉教授が「突然変異のほとんどは有利でも不利でもない」との「中立説」を発表しました。その後、太田先生は木村氏と共同で中立進化説の基礎固めを行い、1970年代に「わずかに不利な“ほぼ中立”の変異でも集団の規模が小さければ偶然広がる確率が高まる」という「ほぼ中立説」を発表しました。この仮説は、その後の分子生物学の進歩に伴い、生物進化の議論に多大な影響を与えました。

<太田朋子先生の著作>

『分子進化のほぼ中立説—偶然と淘汰の進化モデル』（講談社）・・・本校図書館にあります。